



作文1部

もんぶか がくだいじんしょう
文部科学大臣賞

「いただきますいのち」

栃木県大田原市立紫塚小学校三年

戸谷 遼太郎

ぼくは、白いごはんを見ると、おなかがすいていなくても、食べたくなってしまう。

どうしてかというと、たきたてのごはんのにおいに、つい、つられてしまうからです。だから、お米を作っている人に、かんしゃをしています。

きつと、お米一つぶ一つぶには、いのちをささえる力があると思います。

そう思うようになったきつかけは、夏休みに行った黒羽山のお寺でのしゅぎよう体けんです。そこで、おぼうさんは、「いただきます。」という言葉には、「いのちをいただきます。」という意味があるということを知っていただきました。ぼくは、「いただきます。」の意味を知ったので、物をそまつにできなくなりました。また、おぼうさんは、食前のちかいても教えてくれました。

お寺の朝食は、おかゆにごまをかけて、他には、

うめぼしときゅうりのつけ物とたくあん二まいです。その内の一まいは食べて、二まい目は、なんと、食べ終わったお茶わんのよごれ落としに使います。まさか、お湯を入れて、たくあんであらうなんて、信じられませんでした。そしてさい後に、そのたくあんとお湯もいただきました。むかしの人は、お米をそれだけ大切にしていました。そうして、大人から子どもにいのちをつないできたのだと思います。だからぼくは、「お米があるから、今がある。」と思うようになりました。

それに、お米は、ぼくたちみんなの体のエネルギーだけでなく、心のエネルギーでもあると思います。ぼくたちの食べているごはんは、お米を作る農家の人や、お米をはこんでいる人など、お茶わんの中のお米一つぶ一つぶに、たくさんの人の「思い」がつまっていると思うからです。

ぼくは今、せが小さいけれど、これからごはんをたくさん食べて、元気になって、体も心も大きな人になりたいです。